

京交山岳部報

今月のテーマ <<3000mの頂きへ 干支の山>>

〔第1793回例会〕★★

飛騨の国 1等△1,626m

川上岳

日時 6月30日(土)～7月1日(日)

集合 壬生PM8:00

コース 京都東IC-中津川IC-R257
-飛騨萩原-川上…川上岳(往路
下山)

担当者 大槻 雅弘(☎544)

備考 参加者は事前に必ず連絡して下さい。

〔第1794回例会〕★★★

御在所岳

藤内壁

日時 7月7日(土)～8日(日)

AM7:00

集合 八条口観光バスのりば
コース 京都-鈴鹿スカイライン…藤内壁
(泊) 翌日往路帰洛

担当者 梅津 吉田 武(☎654)

備考 現地にてテント泊まり。

〔第1795回例会〕★★

鈴鹿

国見岳

日時 7月14日(土)AM7:00

集合 壬生

コース 京都-栗東-土山-鈴鹿スカイ
ライン-藤内小屋-寺跡-国見尾根
-国見岳-御在所岳△1,209.8
-中尾根-鈴鹿スカイライン-往
路帰洛

担当者 岡田 茂久(☎698)

和田 良一(☎654)

〔第1796回例会〕★★

夏山トレーニング

伊吹山

日時 7月15日(日)AM6:40

集合 JR京都駅2番ホーム

(AM7:02発米原行乗車
コース 京都-近江長岡-伊吹登山口…伊
吹山(△I1,377m)…伊吹登
山口-近江長岡-京都

担当者 本局 山岡 昭弘(☎571, 822
-9108)

備考 申込締切7月11日(水)午前中
通常山行装備。交通費は実費。

地図 長 浜(5万分の1)

関ヶ原(2.5万分の1)

〔第1797回例会〕★

厚生会登山トレーニング

愛宕山

日時 7月22日(日)AM9:00
 集合 清滝バス停
 コース 清滝…梨の木林道…首なし地藏
 …愛宕山…表参道…清滝
 担当者 本局 岡田 茂久(☎698)
 備考 厚生会登山のトレーニングです。
 参加者は必ず参加して下さい。

〔第1799回例会〕★★

夏山合宿

白馬岳から鑓温泉

詳細はP14に掲載

〔第1798回例会〕★★★

夏山合宿 海拔3,000mから0mへ

白馬岳から柵海新道
を日本海まで

日時 7月26日(木)～31日(火)
 集合 京都中央改札PM9:00
 (PM9:47発リゾート白馬乗車)
 コース 90.6月号を参照の事。
 担当者 CL大倉寛治郎(☎3371)
 SL吉田 茂(☎654)
 備考 申込締切7月10日集会日まで
 (参加者は必ず出席のこと)
 詳しくは担当大倉まで。

— 今月の集会 —

日時 7月10日(火)PM6:30
 場所 厚生会館4F大教室

— 企画運営委員会 —

日時 7月20日(金)PM6:00
 場所 厚生会館4F大教室



リ サ イ ク ル

岡田 茂久

今、地球環境悪化の警鐘が全世界的規模で打ち鳴らされている。

工業化を急ぐあまり、公害問題をおぎなりにしたツケによる欧州を中心とする酸性雨問題。アマゾンや東南アジアにおける熱帯雨林の伐採と、大規模ダムの建設による森林の消滅。いずれも全地球的な気候の大変動をもたらすものという。

熱帯雨林の伐採が促されている原因のひとつに、先進国を中心とした膨大な紙の消費が問題視されている。我々の周囲は実に紙・紙・紙の大氾濫で、日々発行される新聞を初め、本屋の店頭に並ぶ出版物の多さには圧倒され、OA機器用の用紙の消費量も年々増加し、建築材料からダンボール等、勿論、我々のこの部報もその消費の一端をになっている。いまや我々の文明は紙によって維持

されていると言っても言い過ぎではない。

現在、日本の紙生産量はアメリカに次いで世界第二位。消費量は日本人一人当りにして年間200kg余に及ぶという。200kgのバージン紙を作るためには、トイレトペーパーぐらいの太さで約10mの長さの木が4本。これは実に、日本人全体では5億本にもあたるという。

しかし、実際には紙の総原料の内、半分は古紙からの再生紙ということであるが、まだまだ回収されない古紙が焼却処分や埋立処分され、古紙焼却時には有害な物質を空气中に放出し、埋立地を短時間で埋め尽くしてしまう要因となっている。もちろんバージンパルプ生産時には有害な物質を空气中に放出し酸性雨の原因の一つとなったり、ヘドロを排出し環境を汚染してきたのは周知のとおりで、バージンパルプの原料としての熱帯雨林の大量伐採の結果、予測される地球の気候変化は悪夢のようであり、人類の繁栄の源である紙文化は必ず地球環境汚染を伴う両刃の剣といえる。

しかも古紙からの再生時にもヘドロが発生し焼却処分するため有害物質を発生するというから、紙に変わる簡便な情報伝達の開発が、我々人間の未来のためには待たれるところである。

とりあえずは環境汚染をより少なくするために、古紙回収による再生紙利用の促進がベストであるといわれている。局内でも反故コピー用紙の回収が奨励されているし、我々山屋としては率先して古紙回収に協力したいものだ。

実は、ある場所で京交山岳部報が、十数部もゴミ箱にすてられていたのを偶然に見付けたことから、せめて京交山岳部報だけでも、地球環境汚染を助長して欲しくないと思ってとりあげてみた。

編集子が苦勞し、我々が育てている大事な部報である。京交の心がゴミ箱に捨てられている気がしたが、情報を得た後は不要で、残念だがファイルしないならばせめて古紙回収にまわし、地球環境保護のために再度のお役にたてて頂きたいと思う。

先日ある月刊雑誌の再生紙特集を見たが充分に保存にも耐えるようだ。山岳部報の再生紙への切り替えも考えていきたい。

[第1786回例会]

伝説の 大 江 山「赤石ヶ岳、千丈ヶ嶽、鳩ヶ峰、鍋塚」と 忠 田

大 倉 寛 治 郎

大江山一度は登って見たいと思っていた、いつも車で通過し眺めるだけであったが今回、出版の調査山行でおとずれることができた。予報ではあまり天候は芳しくなく気をもんだが晴れ、5月12日(土)午後1時30分壬生に集合する。同行者は山岡、大塚、私と由喜子の四名で出発、西京極で燃料を補給スタンドの店員が「以上ありませんか」との間に「以上なし」と言いエンジンを掛けるとマフラーより異音がでるのでハテナと思いながら少し走行し点検すると継ぎ目が破損、部品を取り替えれば直るので山行終了後修理することにして(チョト音が高いが)そのまま走る須知で休憩後福知山へ。通行車両も以外と少なく予定どうり牧へ、ここで右折して国道9号線と別れ上天津の信号を左折176号線に入る。以前は大変苦勞して加悦へぬけたが、現在は改良工事の完成で快適に通行できる。予定どおり旧与謝峠より林道に入る、少し荒れていて乗用車では少しきついが

何とか1.6 kmほど入ると行止りでパラグライダーの基地となっており通抜け通行出来ない。来た道を戻り、国道へでる。加悦町へ向け少し行くと大江山登山口の標識がある所を右折、約4.8 km舗装された道をいくと「大江山憩いの広場」に着く、ここの施設はセンターハウス、バンガロー、キャンプ場、テニスコート、駐車場等がある。管理事務所を尋ね周辺の事柄を聞く赤石ヶ岳へは35分で登れるので軽装で出発、施設の横をとおり大江山(1.5 km)、赤石ヶ岳(0.7 km)の鞍部から右へ、山路は手入れがされて登りやすい、後ろを振り向くと大江山、加悦町らが望め後線は大変美しい。尾根の急登を登り切ると赤石ヶ岳(3等736.2 m)に着く、頂上からの展望はもやがあり期待するほどの遠望は出来なかったが三岳、が大きく写り左の方向には大江山らが望めたがあとは確認出来なかった。記念写真をとり往路下山、管理事務所の職員の方に次回のため江笠山、権現山、杉山、の事を尋ね、18時10分大江町仏性寺へ向け憩いの家を後にする。国道寺谷から天日内を通り「大江山の家事務所」に着く、テント場。明日のコースの確認をしてテント場へ出、手分けをして設営に掛かる20時ちよと遅い夕食をとるメニューは水だし、焼鳥、サラダで、ランタンの明りの下で食も進み明日のスタミナ補給をする。22時過ぎにはテントの中のシラフにもぐる。

5月13日(日)午前5時起床朝食後6時45分テント場を後にする。車で鍋塚登山口の所まで移動、此所で車駐車、装備をととのえスタート。正面には鳩ヶ峰が見える舗装された車道を鬼嶽稻荷神社へ1.5 km行くと正面に赤鬼がでんとかまえて居る。その横には道路開通の石碑が有る、少し行くと鳥居があり其の奥には稻荷神社と休憩所があり一息入れる。本殿に参拝し登山口の所を左へ下がり約10分の所に鬼の洞窟へ立ち寄る。洞窟は奥行5 m、幅約2 m、高さ3 m程有る。途中にはブナの木を多数見うけられた、登山口から5分登ると登尾からの分岐へ出さらにいくと尾根筋に取り付く。登路はひろくさすが遊歩道しばらく行くと双峰、天座(1.2 km)と千丈ヶ嶽(0.3 km)の分岐でどの道もよく手入れされている。一息入れ頂上へ千丈ヶ嶽(2等832.5 m)に立つ展望は360度天候は晴れで風が強くTシャツではさむく一枚着る。昨日同様もやが掛り遠くはのぞめないが西の方向に江笠山、赤石ヶ岳、三岳、鳩ヶ峰、鍋塚らを展望できた。

続いて鳩ヶ峰こども展望は大変よく次の山鍋塚が大きく見える、登り下りがあるが縦走するには大変変化にとんで又時間に余裕があれば楽しく散策できると思う。つぎなる山へ熊笹のなかを歩いて鞍部の鍋塚林道の終点に着く、此所にも避難小屋がある。小休止後つかれた体にもっと歩けと言ひ聞かせながら鍋塚(3等763 m)頂上へ残念なことに三角点が掛けている。大切にしてほしい。展望は大変良い写真をとり山岡、大塚、由喜子の三人と別れ、私は来た道を鍋塚林道から車のところまで戻り普甲峠から航空管制塔まで車を回送する。三人はさらに鬼の岩屋を通り管制塔まで出てここで落合う。ここで大変ごうかな昼食とる。次ぎの点名「忠田」(3等572.5 m)へは体が重くしんどい。登路は740 m、町界尾根300 m下る、切り開きは此所までで、この先は以前に三角点まで開発されたままで荒れているが登路ははっきりしている。何とか三等三角点に着く。回りは雑草が生い茂り三角点は埋れていた。展望は東の方向しか望めない風もなく大変蒸し暑い、縦走の最後はこたえた、往路を戻る。干したフライをたたみ管制塔をあとにして普甲峠、関、国道175号線、福知山へ、須知にて休憩後、四条大宮へ着く。

参加者の御協力で何とか大江山周辺の事柄が一部を残し調査出来た。

〔コースタイム〕

5月12日

壬生13:40-須知14:52~15:00-福知山15:35-林道入口16:05-終点
16:45~16:18-林道入口16:26-大江山憩いの広場16:45~17:02-鞍
部17:05-赤石ヶ岳17:25~17:41-大江山憩いの広場18:10~18:35-
大江山の家19:20-テント場19:30

5月13日

テント場6:45-鍋塚登山口駐車場7:04~7:20-稻荷神社8:05~8:20-鬼の
洞 8:31-登山口8:51-大江山(千丈ヶ嶽)9:32~9:50-鳩ヶ峰10:15~
10:30-鍋塚林道終点10:50~10:57-鍋塚11:18~11:30-鬼の岩屋
12:17~12:27-(林道終点10:39-駐車場11:50~11:55-普甲峠12
:15-航空管制塔12:20)-管制塔13:39~14:20-忠田15:00~15:1
0-管制塔15:57~16:25-須知17:40~18:00-四条大宮19:02

〔参加者〕 山岡 昭弘、大塚 孝之、大倉寛治郎、大倉由喜子

〔第1787回例会〕

台 高 白 鬚 岳

岡 田 茂 久

白鬚岳は台高山脈の中央、赤倉山から西南に伸びる大きな支稜の先端に位置する尖峰である。いかにも登高欲をそそる山容であるが、人里に近いわりには知られておらず登山者も少ない。それだけに静かな台高らしい山行が楽しめる。柏木からのルートは紹介されているが、我々は北股川から中奥川筋に越える大たい峠を経るルートを選んだ。

櫃原から北山に至るR169は、大滝から下多古あたりまでは道が狭く、大台ヶ原へ至る道の難所の一つであったが、大滝ダム建設のための迂回路が十数年ぶりに完成し、素晴らしい道路となっている。おかげで思ったより早く柏木まで着くことが出来た。

大追ダムで大台ヶ原への道と別れ、入ノ波温泉を経て二股から北股川林道を詰める。久しぶりの台高入りである。昔、上市からガタガタ道をバスで揺られ、今はもう大追ダムの底となっている旧入ノ波から、重いキスリングをゆすり挙げながら何度この道を歩いたことであろう。三の公谷の鉄橋もそのまま懐かしい。八幡平にも林道が通じてしまったが往年の面影だけは残っている。

北股川林道は三の公谷の先、本流の橋からしばらくで舗装は終わり狭い地道の林道となる。大たい峠への登り口は南股谷の先と見当をつけていたのだが、材木運搬のトラックとヨッコラショと離合をした所が登り口だったのだ。おかげで見過ごしてしまい、林道を詰め過ぎて大幅に時間を費やす大失敗。引き返してようやく藪をかきわけ登り口を発見したのはもう10時半を過ぎていた。

20万図にも記載されているルートであるがすでに廃道である。最初から植林の中の心細い作業

道を登る。やがてそれもブッシュの中に消え、あとはとぎれとぎれの踏跡と獣道を拾いながらの登高となる。地図で見当をつけた等高線のわりには急登で、日頃の不摂生がたたりバタバタで2時間余もかかり大たい峠へつく。ブッシュの中にへたりこみダニを気にしながらの昼飯。

ここまで登ってきてやっと白鬚岳のピークが望める。白鬚岳へは稜線沿いに大たい峠からいったん鞍部へ下るが、この辺りは北股川側から良く手入れされた植林が稜線まで延び、植林の中の快適なルートとなる。注意して見たがこのあたりへはこれといった作業道は登っていなかった。二つ三つコブを越えると広い稜線の雑木の粗林となる。気分のよい場所でルートも自由にとれるが下りは迷うことは必定で、丹念にナタ目を打つ。

白鬚岳の北峰は気持ちの良いピークである。そこからちょっとした岩壁をよじればすぐに1378mの白鬚岳頂上であった。思いがけず二人の登山者に出合う。大阪からとのことであった。

半分朽ちた測点檜の下に二等三角点がある。あいにくの高曇りで展望はあまり良くなかったが、それでも高見山から台高主稜の山々、大峰山脈までの展望を楽しむことができた。頂上周辺のあちこちにアケボノつつじのピンクの花が可憐であった。天然の椎茸の群生を見つけ歓声をあげる。

柏木から神の谷沿いのルートを往復するという大阪の二人を見送り、のんびり1時間近くも滞頂してしまっただけ。さすがに時間が気になり下山にかかる。大たい峠まではナタ目のお陰で快調に降れたが、大たい峠からの下降で踏跡を見失う。「迷子になってしもたんか」と心細そうな声の後方から聞こえてくる。高度にして約300mはあろうか、うろろうしているよりはと、ちらりと見えたはるか下の北股川をめがけてブッシュの中を直下降、降りた所は林道脇に駐車した車の真上で、どうやら明るい間に下山出来たのは幸いだった。

三の公谷の八幡平にも立ち寄るつもりであったが時間切れ。そのかわり珍しい物を見つけた。林道脇の山ノ神とおぼしき祠に、丈1mは越えようかというリアルな金精さまが直立鎮座ましましていた。武運長久を願い頭を撫でておく。山ノ神は女人であり、その容貌醜いためオコゼを供えるのは自分より、より醜いものを見て大いに喜ばれるためと聞く。金精さまはあまり聞かないが大いにうなずけるところである。

帰途の入の波温泉は桧の香りもすがすがしく、浴槽から暮れなずむ大峰の稜線を見上げながら、今日の山旅を回想する気分は何物にも替え難いものであった。

入の波温泉では悲しいニュースも聞いた。かって大変御世話になった八幡平の西浦老が、おばあさんの後を追うようにして一昨年暮れに亡くなり、何度も泊めてもらったあの家も、今はもう住む人もなく朽ちつつあるということである。老の小柄な身体に柔和な眼差し、まむしに何度も噛まれたからだというごつごつの手。ランプの明かりで入ったあの煙たい五衛門風呂も懐かしい。

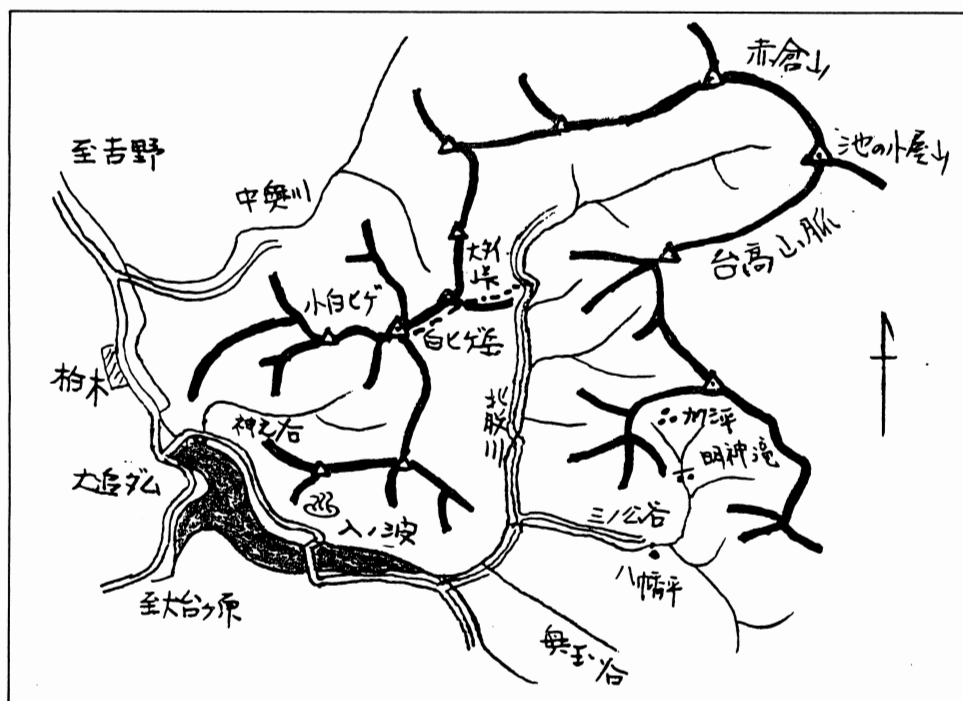
来年のNHK大河ドラマは”太平記”。南朝遺跡の多い川上村では、今度はおらが村の観光ブーム到来と期待感でいっぱいである。吉野や川上村はこれからさぞ賑やかになることだろう。わたしも次回の台高はぜひ八幡平から南朝遺跡の隠平を再訪してみようと思っている。

(1990,5,13)

〔参加者〕馬淵、近藤、横井、和田、方山、井戸、井戸F(海平君、洋介君)、岡田

[コースタイム]

京都竹田駅西口 5:30 = 柏木 8:00 = ロスタイム = 大たい峠登り口 10:38 ... 大たい峠のピーク (3:00 ~ 13:30 ... 白鬚岳 14:35 ~ 15:20 ... 大たい峠のピーク 16:20 ~ 16:30 ... 登山口 18:00 ~ 18:15 = 入の波温泉 19:00 ~ 19:40 = 京都 23:30
登り口迄車往復 250 km



[第1788回例会]

登尾山(△633)三国山(△557)荒神谷山(△571.9)

横井 襄二

結局トリプル登山で三角点二、三、四等を稼ぎ、予定外の行動でWさんから、クレームがつきそうでしたが、残り時間の少ないのが居りますので、稼げる時は稼ぐといった案配になりました。

好天に恵れ9号線426号線も空いていたので一気麗の上佐々木集落に着く。目の前に登尾山のパラボランテナが見える。丁度不動尊の日だったので地元の人にルートを尋ねるが、林道が切れた所からは道がないとのこと。こゝで車をすて、林道を西へ少し行くと、左側に滝がある、先程地元の人が参拝した場所だ。巾1.5m、高8m程の滝で水量も多く、滝の音にも、夏を呼ぶ趣がある。滝を後にしばらくすると、林道は終点となる。後は地図を頼りに、北に方向を変え沢に入る。

けもの道らしい所にぬた場が所々ある。きつい登りの雑木林ややぶを登り切ると、NTTのパラ

ボラアンテナの下に着く。舗装された道で少々がっかり。この道をほんの少し行くと、アンテナの西側に登尾の三角点(633m)がある。展望は良く、遙か彼方には舞鶴湾も見える。

このアンテナへは、登尾峠から舗装道路が通じているが入口が閉されているので、一般車は勿論、人の姿も見えない。時間も早いので、舗装道路を2km程下って、この道と分れて山道に入る。植林地帯や雑木林を抜けて10分程で鞍部に着く、ここで昼食。

例によってグルメ指向の皆によって和、中、洋のパラエティにとんだ食事ができる。食後は煎茶で一服たてる。茶器はコンパクトな一流品?、口取りはくずまんじゅ(冷えている)。毛せんだけはシートで我慢。正に野点そのもの、正座して頂く姿は絵になる、山屋にもこんな風流があるものと感心。

1時間程休憩の後三国山へと向う植林と雑木林の道を小さな起伏を越えると峠に出る、旧登尾峠で巾4m位で高さ4m長さ80m位の両側に野面石積の立派な峠である、一部崩壊しているが、何か郷愁に駆られ、今にも殿様の行列がでて来そうな錯覚さえ起きる。峠から急登が少し続くが後は比較的楽なコース。途中野兎の子供を見る。直径15cm程の丸い薄い恰好で身動きもしない、耳も水平に体に付け枯葉の色に溶け込んでいるので、見過してしまいそうだ。見事なカムフラージュである。手を少しかざすと、ぎこちない走り方で林に隠れた。

西からの谷風が実にこころ良い、尾根を北へ向う。

更に進むと小高い山頂らしき場所に出るが、三国山の三角点(557m)は約100m程西にあった。四等三角点のためか、場所的にあまり良い所でないようだ。三角点にタッチ後、少し休んで荒神山へと向う。相変わらず杉の植林と、雑木林の中を20分程行くと峠に出る。先の峠と違って庶民的感觉のする峠である。

京都側の西石から兵庫側の大河内へ向う峠だから大河内峠と西石の人は呼んでいるが兵庫からは西石峠と呼んでいるかも知れない。

ここに荷物をデポして今日、最後の山荒神谷山へと向う。最初は道らしい箇所もあったが後はやぶこぎ、急登もあり疲れもあり、やゝペースが落ちる。尾根を間違え西へ行き過ぎたので少々バックして北へと足を運ぶ。この北への取付を探すのは少々むつかしく、本来ならこゝで諦めるところだが、あくまで目的地に向う気迫はさすが。

尾根が幾つにも分れているので、慎重に進む。雑木林で道はほとんど無いと同然、30分程で荒神谷山三角点(571.9m)に到着。こゝも展望はあまり良くないが低いながらも三山を踏破できたので大いに満足。

帰途は先程の大河内峠まで下り、東へって西石集落まで一気に下りた。ここから地道を通り、426号線と合致してから正面に伏見山に見える峠を経て上佐々木集落の手前で車に乗り帰路についた。

〔参加者〕 岡田、大槻雅、古布、和田、方山、竹田、津田、横井

〔コースタイム〕 _____

壬生7:25-登り口(上佐々木)9:40~9:55-林道終点10:30-登尾山頂11:07~11:30-鞍部12:03~13:05-旧登尾峠13:18-三国山山頂14:10

～14:30-大河内峠14:47～14:55-荒神谷山15:45～16:05-大河内峠
16:35～16:50-西石17:03-峠17:25-上佐々木17:55-壬生20:45

北 海 道 の 山 旅

坂 井 久 光

5/2敦賀港からフェリーで5/4小樽へ。JRで然別駅で下車。駅前の酒屋で八内岳の様子を聞き、丁度来合せた山菜取の人の車に乗林道の奥迄送って頂き、お影で時間が助った。然別川の二股沢合出でその先も林道やブル道が続くが除雪が済まず残雪と融水で川状の道を奥に進んだ。地図の林道終点から谷を高巻くブル道を登って谷奥の渡河点に出てそこから残雪の急斜面をピッケルとアイゼン着用して支尾根に取付く。稜線に出てコルより北のピークに登ったが這松が出て来た。南にコルを隔てて銀白のピークが聳え、コルに下って一登りして山頂へ。積雪50cm位で周辺の山々が一望、遠く積丹の海岸が見晴せた。天候は曇天で雨が降り出したので忙いで往路下山。折よく2股沢で別の山菜取の仁木の猟師の塩野老人の車に乗せて頂き、仁木のガソリンスタンドの宅で色々お話をうかがってバスで小樽へ。旅館が満員とのことで又バスで札幌に行き薄野のカプセルホテルで一泊。翌5日雨でバスで余市に行き乗換へて美国へ。バスで登山口の先迄行ったが民宿なく、美国の海岸の旅館で一泊。翌6日同宿の人の車で登山口(積丹岳)の林道の中程迄送って頂き、山小屋を左に見て登ると町営の山小屋があった。白樺林の緩斜面を登って稜線に出ると前方をスキーヤーが登っているのが見えた。強風が吹荒れよるめき乍ら登って聳立つ積丹岳の急斜をジグザグに登ってスキーヤーと会った。

下の小屋で仲間と泊っており小樽の人で友人の上口も知っているとか、

余別岳が南に大きく聳えているが、彼の話で途中のやせ尾根は危険で今日の様な強風の日は、遭難のおそれがあると忠告してくれたので単独行だし思止って往路下山したが、稜線の分岐で足跡を見失って支尾根を下って美国川の支流焼野川の支尾根を下って牧場に出て林道を下って道々に出てヒッチして美国へ。バスで余市に行きJRで菌越に行き旅館で一泊。知人の安士へ電話したら早速来てくれ明日の予定を聞き、幌別岳の登山口迄送ってあげるとのこと。彼の親切に感謝した。

翌5/7彼の車で名駒町の林道終点へ。谷筋は残雪が多かったが、登出すと尾根筋は雪がなく片栗が道一面に咲誇っていた。昨年登った三等三角点で一休して残雪の這松の林を抜け、稜線の残雪を辿って幌別岳892mへ。少時休んで往路下山。約速の時間より早く下山したので、山菜をとり乍ら林道を歩いて車を待ったが、余り遅いので民家から電話したら来たとのこと、やっと車に乗り、彼の職場の公民館で休んで、JRで函館へ。

翌5/8民宿で一泊してバスで亀田半島の丸山691mへ向ったが、出発が遅かったので、バスの便悪く林道を5K程歩いて途中合った運ちゃんの聞いたブル道を登ったが手前のピークに登り、尾根を廻って近づいたが時間がかかり、再登を期して下山。バスで湯の川温泉に行き一泊した。翌5/9JRで木古内へ行きバスで知内へ。

バスの便が悪いので、タクシーでナマコ岬の無線塔の林道ゲート迄行き、長い林道を登って無線

塔に行き一休して山道を辿り稜線へ。雪が消えて藪が出て古い切開は、根曲竹が覆われていて山頂迄1km余りをヤブ漕ぎで進んで、山頂と思しき高点を探すが一面の笹藪で小一時間探したが見つからず、小谷石へ向って谷を下った。笹が低い時は下り易かったが、段々ひどくなり、谷川に下って、一休して谷沿いに下った。白山小桜の美しい花が咲いていた。又、連日白根葵の美花も見られ、所々に竜金花も咲いていた。

砂防ダムに出て、水渡池から林道となり、小谷石へ下ったが、バスを待つ間歩いていて車をヒッチして知内に戻り、知内の姫の湯温泉へバスで行き一泊。翌5/10バスで木古内に行き、タクシーで、神明の谷奥へ。崩石で途中下車不通ケ所あり、長い林道を歩いて、瓜谷山549mへ。林道終点から谷道を辿り、谷奥で山腹を巻いている山道に出合って山頂近くに登ったが、その先は藪で、山頂一帯はブナの疎林で平坦で一面の根曲竹の藪で小一時間探したが三角点は見付らず残念だった。往路下山して神明駅手前で汽車の来るのが見えて走ったが間に合はず、国道に出てヒッチして湯の袋温泉へ。上国町保養センターに行き一泊。

翌11日JRで函館に戻り、長万部乗換で小樽へ。バスで朝里川温泉へ行ったが過ぎて安い旅館がなく小樽へタクシーで戻り、ビジネスホテルで一泊し、翌12日10時発フェリーで5/13 16:10舞鶴上陸、JRで帰京した。

〔個人山行〕

1990年5月13日

烏ヶ岳 | △ 536.5 m 登頂記

津田 実

燦々と降りそそぐ陽光のもと翠の樹林を掻き分けて、書きたいところだが。今年は、エルニーニョ現象の前兆か、?曇りか、小雨の降る陰鬱な山屋泣かせの天候が続く。

そのような暗い或る一日、またもや酔狂者が山陰街道を西へと車を駆る。目標は福知山の烏ヶ岳一等三角点である。

山麓は明利の畔より谷間の小道へ歩を運ぶ、付近は杉の植林地帯で昼なお暗い。もう下枝を打頃と思われるが、ご多分に洩れず後継者難で手入れが出来ず困っていると村人の話であった。

小谷を右へ左へと鷲の如く渡り徐々に益す傾斜に喘ぎ乍らも源頭部付近に辿りつく。「今日の山行きに際し先輩諸兄に様子を伺うと立派な舗装道路が山頂まで通じていて車で登れる山とのこと。」

「ほんなら足で登ってやろう」と福知山の知人に電話を入れると是非同行したいとのこと。かくて山は初めてという親子5人を案内する破目となった次第。

源頭部付近で小径は自然消滅よく前方を見ると電柱があり、地形的に車道があるはずとお得意の四輪駆動で駆け上がる。新人親子も頑張って付いて来る。途中で村人に教えて戴いた杣道を発見最初の意気込みに似合わず楽に舗装道路にでられた。そこはNHK送信所下約200m位の地点であった。

一等三角点は流石本点だけあって立派なもの小さなお宮と共に厳然と鎮座してごぞった。さて付近の山影をと持参の1/20万を広げてみたが霧がかかって展望は零に等しく、子供達のご飯の声

にやむなくザックを開げる。

その健啖ぶりは、おにぎりや、ラーメンの鍋がアツというまになくなり、ご両親と老生は残飯を漁る破目となる。食事中も色々な車が上がっては、降りて行く。これでは落ち着いてご飯もたべられない。仕方なく又、天候も変わってきたので渋る子供達を「又、連れたる」となだめて下山にかかる。

帰りは先程の峠道を通ると山腹を大きく迂回して道の消えた地点に出た。余り変なので付近をよく見ると小径は草の蔽はれ一見、判らないが慎重に注意してよく探したら見付かったかも。

お詫びに山菜を沢山とって差し上げた。

「愛宕山トレーニング山行」

西尾直樹

5月27日、夏の白馬縦走にむけ20kgの重量担荷を目的とする愛宕山々行がおこなわれた。コースは、清滝を発して、堂尻川に沿い梨ノ木谷から首無地藏を経て愛宕神社に参拝し、表参道を下山することが予定されていた。当初より少数参加と聞き及んでいたが、アクシデントも重なり、結局、大倉夫妻と山岡氏と私の計4名のパーティとなった。当日、気温はやや高めながら湿度の低い晴天となり、暑さがこたえるかとの予感の一方で気分は爽快であった。

10時清滝きれいな橋を出発し、途中高雄に向う東海自然歩道の分岐を経て、堂尻川を右手に見ながら林道をすすみ、10時35分に空也滝登口に着く。いつもは5~6kgのデイバックという身軽さのためか、肩にくいこむような重量感が出発早々のゆるやかな林道故に却って未来を暗澹たるものにしていった。ただ、若葉を通して射し込む緑色の光線のやさしさが心を慰めてくれる。小休止で冷凍の一口ゼリーを頂き、気をとりなおして出発。

しばらくして小山ほどの巨岩のゲートに出くわし圧倒されていると「岩登りのトレーニングにはもってこいですね。」「こちらの岩は逆層ですから登りにくいですね。」との会話が聞えてくる。さすがに山好きである。11時15分に林道が左へ大きくカーブするのが見通せる橋に着き、オレンジをとりながら小休止。30分ごとの休息が体に有難い。

少しづつ傾斜を増していた林道が突如として急傾斜となる。コンクリート舗装のため歩きやすいものの信じられないような斜度である。どれだけ続くのかと思っていると傾斜はゆるくなり、11時40分、林道の終点、大岩にたどりつく。近くの清流で顔の汗を流しきっぱりしたところで、本日の正念場となる首無地藏への登りである。

林道から巾の狭い階段状に登りつめていく山道へと変わる。道はかなり荒れた感じで、沢を一度越し、笹の茂った道へとでる。足元を見ながら必死に後をついていく。先頭をいく大倉氏のものなのか、滴となって落ちた大粒の汗が小石のうえで光っている。そんな場面にたびたび接して誰しもしんどいのだと言いきかせる。山頂を望めるようになった辺りで、山岡氏が左手に湧水地を発見。「先ほどの沢の水源でしょうか。」との発言にしばし休息をとり、その泉で喉をうるおす。「冷くておいしいね。」という声に先が見通せた安堵がうかがえる。目星がたつと俄然力づくのが人の性

で、12時25分には首無地藏の前に4人が揃う。

笹がおおっている疎林の道は気持ちが良い。高雄へ向う山道を少し下って林道に出、比叡山を含む大パノラマを遠望しながら松の木陰で昼食をとる。クーラーとは有難いもので、キリッと冷えたビールが何とおいしいことか。大倉氏のソーメンと、山岡氏のインスタント食品の相伴にあづかる。林道を土埃をあげて走る車があったのには閉口したが、学生サークルと思われる自転車の大部隊があらわれたのには驚かされた。自転車であるのも並ではあるまい。1時間の休息となり疲労も回復し、1時30分に出発。

首無地藏前で記念撮影も終え、小起伏を繰り返す涼やかな山道を歩く。2時には「砥石場」に出て視界が一挙に拡がり、左手前方に愛宕の森を望む。落差数百mに及ぶ急斜面に道がついているため、ひきづりこまれそうな恐怖を感じながらの進行である。恐怖の一方で、ガレ場は京の街並を見渡せる眺望を与えており、立ちどまり振り返りつする進行でもある。

ガレ場を抜けて小広い林道に着いた時点で写真撮影のため少し遅れた山岡氏をしばし待つ。待ちの合間に大倉夫人が落の群落をみつけ、後者の山岡氏を含めて落とりがはじまる。「煮つけるとおいしい。」という声を背後に夫人より頂いたコーヒーを飲みながら京の街をながめる。二条城、御所が緑の塊りとなって認められるものの全体に白っぽく緑の乏しい景観は残念である。

2時20分には落とりを終え、まだ愛宕の三角点を目にしていない私のために三角点をめざす。ガレ場を登っていくと「砂とり」遊びの棒のようになってしまった三角点標柱を見出す。倒壊も遠くなさそうで哀れである。

小休止の後、2時40分に出発。3時には愛宕神社に到着。お札をもらい社務所へと下る。社務所ではトレーニング用の水を寄進し、コーヒーの接待を受ける。大倉氏は20ℓ、山岡氏は5ℓ、私は3ℓをそれぞれ減量することができた。神社の職員であり山岳会の役員である中村折美男さんと出会い、カンチューハイを頂く。下りのみの気楽さから1缶をあける。

4時10分に大倉氏を下山予定の中村さんに先立ち3人で下山。水を減じたとはいえ8kg相当の鉄壘鉛のはいったザックは未だ重く、酔も手伝ってなかなかしんどい。ガイドマップ記載通りのコースタイムで進んでいると、水尾への分岐を越した辺りで大倉さんらに追いつかれてしまう。かなりハイペースでの下山である。20kgも減ずるとさすがに超人である。中村さんにとっては通勤路であり勝手知ったる道である。2人とも行者か仙人に変じたかのように駆け降りていく。夫人もそれについていってしまう。必死になって追いつがるものの、1時間ほど休みもなく歩いたため山岡氏と2人茶店の近くで小休止をとる。あとどのくらいなのか気にしながら再び出発。しばらくして「お助け水」に出くわし、左手にケーブル跡を見ながら、10分もせずに表参道の登口に着いてしまった。5時24分である。大倉夫妻と合流し、4人揃ったところでハチミツレモンで喉をうるおし山行をしめくくった。

今回の参加は白馬につれていってもらいたいがためのものであったが、久々に山に登ったという充足感のあるものになった。20kg相当の重量に耐えられるような体力をつける必要性をヒシヒシと感じながらも、どうにか歩き通したことは次回へと課題をつなげたものとして自己評価しておき

たい。

また、最後にはなりましたが、部外者にも広く門戸をひらき活動をすすめられておられる京交山岳部の役員、並びに部員のみなさんに深くお礼申し上げるとともに、敬意を表したいと存じます。

〔コースタイム〕

清滝 10:05 → 空也の滝分岐 10:35 ~ 10:45 → 梨の木谷林道終点 11:40 ~ 10:50 → 首無地藏 12:25 ~ 13:30 → 愛宕山三角点下のガレ場 14:05 ~ 14:20 → 愛宕山三角点 14:30 ~ 14:40 → 愛宕神社 15:00 ~ 16:00 → 清滝 17:20

〔参加者〕 大倉寛治郎 (F1)、山岡 昭弘、西尾 直樹〔記〕

高 山 病 に つ い て

高 山 気 候 〔高地気候〕

普通 700 m 以上の高地の気候を言う、この気候の特徴は、気圧及び酸素張力の低下、気温低下、気温低下と絶対温度の低下、日照時間の延長ならびに輻射強度（特に紫外線）の増強、塵埃の減少、また一般に気流が強い。そのため、登山、航空機などの場合のごとく、比較的短時間内に高山気候内に移動すると、疲労感、呼吸困難、めまい、失神、出血などの急性症状を呈し、高山病と呼ばれる。また高山気候内に長期にわたり生活する場合には赤血球増加が著明である。

赤血球数は、大よ 1,000 m で 60 万、1,500 m で 650 万、2,000 m で 700 万に達する。これに並行して血色素量も増加する。この原因は酸素張力の減少に対応したものと考えられるが、増加する太陽輻射の皮膚刺激によるものともいわれる。然し平地に戻れば、赤血球数は平常にもどる。

また脈拍数増加、安静時または労働時の総代謝量増加はみられるが、高山気候内滞在が長期にわたるときは、漸次消失する。このほか、水分排泄が容易になり、口渇著しくなる。健康者の場合は血圧の変化はない。

高 山 病 〔山岳病・山酔〕

高い所、すなはち気圧の低い所に行くと、いろいろの病的症状が起こる。不快感、頭痛、易疲労感、動悸、息切れ、チアノーゼ、食欲不振、嘔気、嘔吐がくることがある。睡気、めまい、脱力感、精神鈍麻、興奮状態などが現れたり、または思考力、記憶力が減退し、聴覚、視覚、嗅覚にも異常がくる。非常に気圧が低いと、呼吸困難、中枢神経の犯され方も激しく、運動失調を起こし、ついに失神して斃れる。これは高い所へ行くと、酸素の分圧が低いために起こる窒息症状の一種といわれるが、酸素欠乏時に起こる過呼吸による二次血液及び組織の CO_2 欠乏症もこれに関係するといわれる。ゆえに高空に上がるとき、単に酸素吸入をさせるよりは、これに少量の CO_2 を加えることがこの症状の発現に大いに関係がある。

ある高地にしばらく（2～3週間）滞在してまた上がるというようにすると、通常は危険と思われる高さでも十分生活しうる。これは赤血球の新生、心臓の拍出量の増加によって O_2 欠乏が起

らないからである。このような現象を馴化といっている。気圧130 mmHg (12,000~13,000)以上の所では肺胞内の酸素分圧は130~145(水蒸気)-20(CO₂分圧)=65(mmHg)以下となるから、加圧した酸素を吸入しないと危険である。単に加圧空気を吸入するだけでは肺循環が圧迫障害されるから、効果がないどころか、かえって悪い。

以上は、南山堂 医学大辞典 P657~659より

例会報告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1786	大江山	5月12日 ~13日		大倉寛治郎	山岡 昭弘 大塚 孝之 他1名	別稿詳報
1787	白鬚山	5月13日		岡田 茂久	馬淵、近藤、 横井、和田、井戸、他2名	別稿詳報
1788	登尾の頭 三国山	5月27日		岡田 茂久	大槻雅、古市、 和田、方山、竹田、津田、横井	別稿詳報
1789	大棚入山	6月2日	雨後 晴	三橋 勉	伊藤 潤治 他4名	前日は雨降りであつたが、翌日快晴に恵まれ登って行く途中でまず残雪の御岳が見えてきた。そして乗鞍岳、笠ヶ岳、穂高連峰が北の方向に、そして南側にまわり込むと目前に大きく木曾駒が姿を現し、南アルプスも見えて最高に展望を楽しませてくれた。次号報告

〔第1799回例会〕★★

夏山合宿 白馬岳から鑓温泉コース

日程 7月26日(木)~29日(日)

集合 京都駅八条口 26日PM10:00

コース 26日~27日

京都22:30-白馬-猿倉…大雪溪…白馬岳(小屋泊)

28日 白馬岳…鑓温泉

(1班)鑓温泉泊

(2班)…猿倉-白馬19:00-京都

29日 (1班)鑓温泉…猿倉-白馬12:00-京都

担当者 本局 井上 一夫(設備課 ☎750 ☎822-9179)

備考 申し込み締切 7月4日まで

費用 25,000円

部 員 動 静

目的 地	月 日	天候	参加者	記 事
北海道の 山 旆	5月 2日 ～13日		坂井 久光	別稿詳報
烏 ケ 岳	5月13日	曇	津田 実 他5名	別稿詳報
金 毘 羅 山	5月20日	晴	大倉寛治郎 吉田 武 松田 誠二 大塚 孝之 山岡 昭弘	夏山トレーニング№1 担架重量15kg前後で金毘羅山三角点を往復の後ワイケン尾根裏側のビビリフェイスにてクライミング練習を行った。
愛 宕 山	5月27日	晴	大倉寛治郎 (F1) 山岡 昭弘、他1名	夏山トレーニング№2 別稿詳報
比 良 山	6月 9日	雨		中止しました。夏山トレーニング№3

雑 報

- ✿ 6月の集会 11日 厚生会館4階大教室
出席者 (OB)奥村、横井 (梅津)吉田 (高速)大倉
(本局)岡田、和田、方山、井上 以上8名
例会報告、例会予定、その他

- ✿ 新入部員
近藤 明義 住所 〒615 京都市西京区下津林佃5-85 ☎391-1087 血液型B
多田 義人 住所 〒616 京都市右京区太秦峰岡町11-33 ☎871-2525 血液型O

- ✿ 他山岳会の会報(受贈分)
5月号 青嶺
6月号 近畿山行、跋涉譜、京都山岳、木雞、比良山岳、愛宕ニュース、北山趣味の登山

- ✿ 部員名簿の訂正
'90.6月の部員名簿に誤りがあったので訂正します。
本局(正) 古市 昌造 ←(誤) 古市晶造



SINCE 1980

THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集會!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US旗出品
ポータブル用品

mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入

TEL 075(258)-0548

●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

- 技術とサービスの創る!印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)

FAX(075)791-7290

お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引きたてにあずかり厚く
御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。
旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し
上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区不明門通り六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)

TEL 075-351-6598(代)

(株) 小林地 函 専門店

平成2年7月1日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内

京交山岳部